

国立病院機構熊本医療センター

No.232



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519



熊本市医師会会長
福島敬祐先生のご挨拶の様子

平成28年度 第1回(通算41回) 開放型病院連絡会が開催されました

平成28年度第1回(通算41回)国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会を、去る9月5日(月)午後7時より、くまもと県民交流館(鶴屋東館)にて開催いたしました。登録医の先生方及び地域医療連携ご担当の皆さまほか総勢286名の方にご参加いただきました。

開会にあたり、河野院長より、熊本市医師会及び開放型病院に登録頂いたご施設によるこれまでのご協力、ご支援に感謝を申し上げます。

続いて、開放型病院運営協議会委員長で、熊本市医師会会長の福島敬祐先生がご挨拶され、当院の地域の中枢病院として、さらなる発展への期待を述べられました。

その後、熊本市医師会理事の田中英一先生と当院高橋毅副院長の司会で総会が始まりました。総会では、症例の提示で、高橋副院長より「熊本地震時の当院の対応について」紹介があり、その後、清川哲志地域医療連携室長による「地域医療連携室からのお知らせ」、大塚忠弘地域医療連携室副室長による「紹介予約セン

ターからのお知らせ」がありました。最後に熊本市歯科医師会会長の宮本格尚先生からご挨拶を頂き、片淵副院長の閉会の挨拶で総会を終了いたしました。

総会終了後は、会場を7階の鶴屋ホールに移して意見交換会が行われました。熊本市医師会副会長の園田寛先生によるご挨拶及び乾杯のご発声で意見交換会が始まりました。診療科毎に設置されたテーブルを囲んで、終始和やかな雰囲気の中で意見交換が行われました。途中、当院の各診療科部長(医長)一同がステージに上がり、高橋副院長が一人一人を紹介致しました。続いて、副看護部長、看護師長一同がステージに上がり、田中地域医療連携係長より紹介致しました。最後に熊本市医師会理事の田中英一先生の閉会の挨拶で盛況のうちに無事終了となりました。ご参加いただいた皆さまにおかれましては、お忙しいところ誠に有り難うございました。この会が当院との連携を一層深めていただき、地域医療を益々発展させる機会となれば幸いです。(管理課長 清水就人)

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「非癌患者さんの在宅医療」

在宅・よろず相談クリニック
院長 俵 哲



皆様には大変お世話になっております。2014年8月1日水前寺3丁目に在宅療養支援診療所、内科・神経内科として開業し、2年を経ました。りんどうネットを通じての画像診断・生体検査依頼・他科の先生方のご意見を伺うこと等ができ、病・診連携のありがたみを実感しています。60歳代での開業は、友人等から危惧の声がよせられましたが、日野原重明先生著の「老いを創（はじ）める」に書かれている、マルチン・ブーバーの言葉“老いることはまた楽しからずや、はじめることを忘れさえなければ。”という言葉に触発されたこと、“90歳代の家内の親を看取ること”、専門家が林立している医療界

で、“自分の症状はどこに行って診てもらいたいのだろうか？”という方の“よろず相談”を受けることを目指して、新患1時間、再来15-30分の予約診療と、週3日午後の在宅診療を行わせていただいています。

非癌患者様の在宅医療では、100歳を超えた方、神経難病、皮膚難病、認知症、頸髄損傷の方等がおられます。予後不良であっても、“今を懸命に、楽しく生きる”ことがご本人・家族の希望であり、①自宅あるいは②施設（GH）での看取りを希望されます。看取り施設に空室がないときには、③要介護3以上での特別養護老人ホーム入所や④期限付きの神経難病病棟入院も視野に入ります。しかし③、④でも看取りは私どもにお願いしたいと申されることがあり、最後をご自宅で迎えたい方には、より一層の病・在連携医療が求められていると痛感しています。難病患者入所専門施設がドネーション（寄付）等で成り立つシステムができないものか？などと夢想する日々です。皆様の益々のご健勝ご活躍をお祈り申し上げます。



在宅・よろず相談クリニック外観

熊本大学大学院生命科学研究部血液内科学教授 松岡雅雄先生の特別講演が行われました

本年7月に熊本大学病院血液内科・膠原病・感染免疫講座の教授に就任された松岡雅雄先生の特別講演が8月30日に開催されました。松岡教授は熊本大学出身で、京都大学ウイルス研究所長も務められ、成人細胞白血病リンパ腫（ATL）の原因ウイルスである「ヒトT細胞白血病ウイルスI」研究の世界的権威です。このウイルスはTaxというがん遺伝子を持つのですが、ATLの患者さんの白血病細胞のウイルスの多くはTaxを欠



講演される松岡雅雄先生



特別講演会場の様子

く変異ウイルスであり、この原因は謎とされていました。松岡教授はこの変異ウイルス内にも発がん遺伝子HBZが残っていることを世界で初めて発見されました。このHBZの研究を通して、このウイルスがいかに効率的に増殖するか、それにより特徴的な病状を引き起こすのかを分かりやすく講演いただきました。

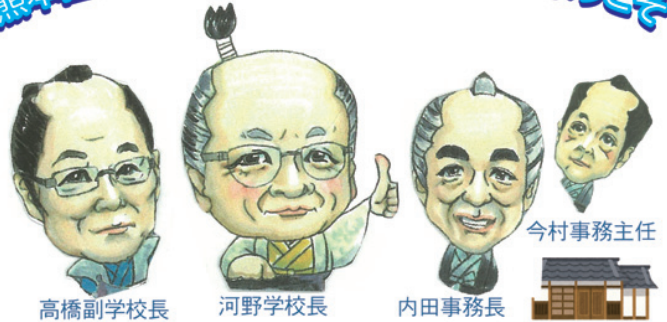
（血液内科部長 日高道弘）

職場紹介

附属看護学校



熊本医療センター附属看護学校へ ようこそ



なんと今年は、**創立70周年**を迎えます。
遡ること昭和19年11月、当時陸軍看護婦養成機関であった本校前身に26名の女子学生が入学。昭和21年3月に熊本懸告第87号看護婦養成所の設置認可がございましたが、既に第1期生は義務生として臨床現場で活躍しておられました。

おみえになったこと、経費約壱百貳拾万を投じて京町分院に学院が改築されたことなどが記載されています。

甲種看護婦養成になって看護婦が教務主任を命ぜられ、二代目教務主任伊佐マル先生がナイチンゲール記章（写真2）を受賞なさいましたことは、みなさまもご存じなのは。学校には、寄贈された褒章や第1回甲種看護婦免許証、校名が刻まれた青銅板など多くの貴重な歴史が残されています。また、学校の庭には熊本城二の丸のころの貴重な木や草花が今も咲き誇ります。



写真2 ナイチンゲール記章を受賞

（教育主事 荒川直子）

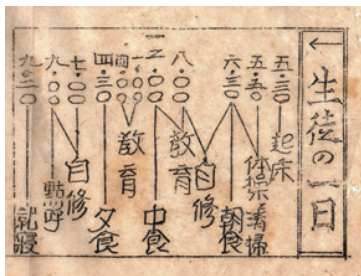


写真1 昭和23年当時の記録：生徒の一日のスケジュール

その後、昭和22年7月新制度に依る甲種看護婦養成所が発足しました。昭和23年当時の記録には、生徒の一日のスケジュール（写真1）、ミス・バーガー軍政官一行が視察指導に



ヨガにはまる妖精たち

ぶれない妖精たち

寝姿も絵になる妖精たち

熊本地震に伴い 「国立病院機構福山医療センター」より義援金をいただきました

9月1日（木）、中国四国グループ内の国立病院機構福山医療センターから岩垣院長、小林管理課長が来院されました。熊本地震に対するお見舞いということで、義援金（職員有志から）をご持参のうえ、わざわざ来院され河野院長に直接お渡しを頂きました。

河野院長から、義援金の御礼に加え、機構本部をはじめ全国の機構病院からの援助に対する御礼、特に中国四国グループ内の施設から沢山の支援物資を頂き、改めて感謝の意を述べられ、その後、当院の概況について説明されました。

次に、高橋副院長が「熊本地震時の当院の対応状況」について、熊本県庁・熊本市消防局、厚労省・機構全



岩垣院長より河野院長へ直接義援金をお渡し頂きました

体の活動状況、当院の被災状況等を説明されました。

その後、意見交換を終え、病院内をご案内しました。大変お忙しい中、訪問頂き感謝を申し上げます。熊本県内では、この前日に震度5弱、この日震度4など、余震がありました。病院のエレベーターの停止はありましたが、病院運営上のトラブルはありませんでした。久しぶりの揺れに少しビックリしましたが、いつ何時も心の準備は必要だと感じました。これまで、連携病院をはじめ全国の医療機関や沢山の方々にご支援を頂き、この場をお借りして感謝を申し上げます。

（事務部長 内田正秋）



ヘリポートでの記念撮影

木村圭志先生の叙勲記念祝賀会が行われました

平成28年9月4日（日）ホテル日航熊本で木村圭志先生の瑞宝中綬章叙勲記念祝賀会が消化器内科・内科の発起人主催で行われました。折しも台風12号が接近する中、先生のために38名の方々が来賓としてご出席されました。発起人代表挨拶、宮崎久義名誉院長ならびに二塚信熊本大学医学部同窓会長のご祝辞に続き、池井聰前院長の乾杯ご発声で会は進行しました。しばし歓談の後に、木村先生の主賓挨拶に移りました。昭和50年に国立熊本病院に赴任されてからのご苦労や平成15年4月国立療養所老岐病院に院長で赴任されるまでの経緯をユーモアを交え詳細にお話しになりました。次に今回の瑞宝中綬章受章式の様子をご子息の木村文彦先生より準備して頂いたスライドで紹介されました。

高橋毅副院長によるお祝いならびに植原悦子看護師



木村先生と参加者全員による記念撮影

からの花束贈呈の後に、10名の来賓による称賛と裏話を交えたテーブルスピーチで会は盛り上がりました。医療は患者のためにあり、専門分化が進んでも内科は一つであることを再認識いたしました。予定の2時間があっという間に過ぎ、最後に河野文夫院長による万歳三唱で閉会となりました。今回の受章は先生の長年に渡る臨床医としてのご功績によるもので、私どもにとりましても誠に喜ばしく誇りに感じています。先生にはどうかご健康に留意され、これからもご活躍されることをお祈り申し上げます。

（発起人代表 消化器内科部長 杉 和洋）



花束を受取られる木村先生（写真左）
授与された瑞宝中綬章と勲記（写真右）

指導医・研修医宿泊研修が行われました

平成28年8月19日（金）20日（土）に、指導医18名と研修医34名および臨床研修管理委員会メンバーが参加して、第3回指導医・研修医宿泊研修が阿蘇熊本空港ホテル・エミナースで開催されました。

1日目の夕方は、熊本大学皮膚科名誉教授で前熊本保健科学大学学長の小野友道先生による「感染症と闘った熊本の先達」と題する基調講演が行われ、その後はおきまりの懇親会となり参加者の親睦を深めました。2日目は、当院の研修に関する五つのテーマでグルー



研修医・指導医協同のグループワーク



参加者全員で記念撮影

プワークと発表・討論が行われました。研修医と指導医が協同して当院の研修システムを見つめ直す、大変有意義な機会と成ってきました。この共同生活？を通して、指導医と研修医お互いに意外な気づきもあったかも知れません。折角の週末を、ご参加頂きました指導医と研修医の方々に感謝申し上げます。今後、この議論の内容をしっかりとフィードバックして参ります。

最後に、会場は熊本地震震源地の益城町指定避難所となった施設でしたが、例年通り利用させて頂きました。研修医が復興の下支えとして早く飛び立つことを願います。
（教育研修部長 大塚忠弘）

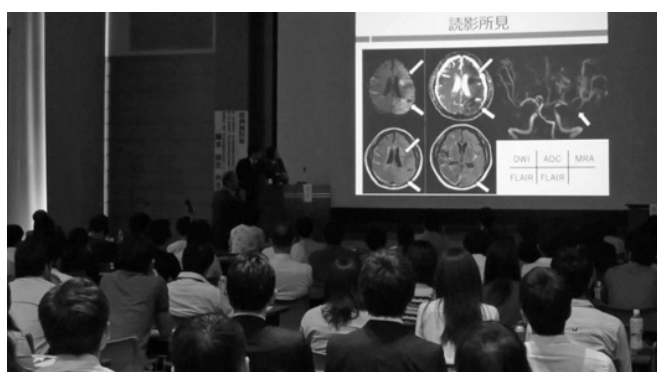
「第5回臨床画像セミナー」が開催されました

平成28年9月3日（土）、当院研修センターホールで、「第5回 臨床画像セミナー」を開催しました。本セミナーは九州国立病院療養所放射線技師会が主催し、日本救急撮影技師認定機構認定講習会等、3団体の認定講習会となっています。読影能力の育成を行うため、放射線科医師による具体的解説やCT・MRI検査時に最適な撮影方法を選択するための知識など現場で役立つ内容となっています。

今回、日本救急撮影技師認定機構の代表理事も兼任



講演 「救急診療に生かす読影補助のあり方について」
地方独立行政法人りんくう総合医療センター 坂下恵治



症例検討会（第2部）
症例提示：国立病院機構熊本医療センター放射線部 北口貴教

されている独立行政法人りんくう総合医療センターの坂下恵治先生による救急現場における画像情報の質向上の取り組みと問題点についての講演もあり、九州内から145名（国立以外から23名）の診療放射線技師が参加しました。5回目にして、はじめての熊本開催となりましたが、台風12号の接近が遅れたこともあり、過去最高の参加人数で無事にセミナーを終える事ができました。
（主任診療放射線技師 深松昌博）

第11回 熊本PEECコースが開催されました

去る9月11日、当院研修センターホールを会場に上記研修コースが開催されました。精神科を専門としない病院やERのスタッフ（医師・看護師・救命士ほか）を対象として、標準的な初期評価・対応を学ぶためのもので、日本臨床救急医学会が監修して展開されている教育コースです。県外からも含め9名の参加者に対して、過換気、自傷、不穏、違法薬物といったケースをグループディスカッションで取り上げました。回数を重ねてスタッフの習熟度も高まり、経験の浅い参加者からも高い満足度を得られました。



参加者全員で記念撮影

コース前日には、日本医科大学武蔵小杉病院精神科から岸康宏教授をお招きして講演会も開催しました（テーマ「PICS（集中治療後症候群）」）。次回は11月6日を予定しています。奮ってのご参加ご検討お願いいたします。

（精神科医長 橋本 聡）

第5回 ELNEC-J in KMC ～ナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケア・セミナーを開催しました～

ELNEC-Jとは、老いや病により死を意識した“すべての人々へ質の高いエンド・オブ・ライフ（以下EOL）・ケアを届けること”をミッションに全国で開催されている看護師のための教育プログラムです。当院での開催も5回目となり、今年は、“その人の内なる力を信じる”とテーマを設定し、8月27日（土）、28日（日）に行いました。

受講生48名の皆様は見事に、「患者の持つ症状をマネジメントする力、人生に関わる選択をする力、老いや悲嘆を乗り越える力を信じ、ケアの専門家として伴走する中で、EOL期にある人の力が発揮されていく」



受講生に力強いエールを送る佐伯看護部長

ことに気づかれ、「患者さんの所に行くのが楽しみです！」と明日からのケアへの意欲を見せられました。研修の終わりに、佐伯看護部長より、「震災で死を意識させられた体験の中で、看護の専門性・必要性をより確信した。2日間で学んだことを是非活かして頂きたい」と力強いエールを頂きました。受講生の皆さま、自分達のかも信じて、質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアと一緒に実践して参りましょう。最後になりましたが、本プログラム開催にあたりご支援して下さいました皆様に心より感謝申し上げます。

（がん看護専門看護師 安永浩子）



グループワークの様子

熊病の歴史

薬 剤 部

国立病院・療養所は、平成16年に独立行政法人国立病院機構（以下「国立病院機構」という。）として単一法人でスタートしました。良質で安全な医療の提供を行うことが使命であり、薬剤部門は調剤・製剤や、医薬品の管理、薬剤委員会等の運営や後発品の採用、薬剤管理指導業務、病棟薬剤業務、チーム医療を通じて安全で効果的な薬物療法に関与しています。現在までの業務を振り返りました。

薬剤部門では昭和59年から抗てんかん薬、強心薬、抗菌薬の薬物血中濃度測定と治療薬物モニタリング（TDM）を開始しました。個々の患者に適した投与設計を行い、そこで薬物体内動態の把握、医薬品の適正量の投与、多剤併用の可否、中毒・副作用の早期発見、ノンコンプライアンスの確認などを行い、処方提案を行いました。

昭和62年から食事の経口摂取が困難あるいは不十分な患者さんに対して、糖質、アミノ酸、脂肪、ビタミン及び微量元素を含んだ栄養液を中心静脈内に直接投与する完全静脈栄養法（TPN）が普及しました。中心静脈にカテーテルが常時留置され、無菌性の維持が重要であり、薬剤師が無菌調製を行うようになり、栄養管理に関わりました。

入院患者への服薬指導が昭和63年に入院調剤基本料として認められ、平成6年には薬剤管理指導業務と名称が改められました。薬剤部門では積極的に薬剤管理指導業務に取り組み、安全で効果的な薬物療法に関わりました。また副作用情報を患者から収集し、重大な

事例に至る前に副作用を未然に防止しました。

平成24年には薬剤師の病棟業務がチーム医療の一環として評価されたものとなり、当院でも病棟薬剤業務加算を取得しました。平成28年には病棟薬剤業務実加算2が、救命救急入院料、特定集中治療室管理料など算定する治療室において追加されました。さらに医療安全の面では、ITを利用して医薬品の相互作用、重複チェック、投与量チェックを行っています。

平成16年までは、国立熊本病院薬剤科は当直、日直で救急医療に対応していましたが、独立行政法人化後は2交替制勤務とし、休日にも抗がん剤の無菌調製と注射薬ピッキングシステムの導入で、1日2回に分けた半日分ずつの払い出しを行っているため、日勤3名夜勤1名勤務としています。

また地域の薬剤師会と二の丸薬業連携講演会を平成26年から共催し、医師と薬剤師の講演と意見交換会を実施し、入院から外来への連携を強化して患者中心の医療が提供出来るように、地域連携に取り組んでいます。

国立熊本病院では平成14年6月より「くすりの勉強会」を開催しています。疾患と薬物療法、薬剤の特長と注意すべき事項を中心に、医師と薬剤師が担当し、医療スタッフを対象に薬物療法についての知識の向上と理解を深めることを目的に、「麻薬」「糖尿病薬」「抗がん剤」などについて講演会を開催しました。

院内感染対策チーム、緩和医療チーム等へ参加し、薬剤師の視点からチーム医療の推進を図ることが重要

です。院内感染対策チームでは、抗生物質等の適正使用の推進を図ります。緩和医療チームでは、モルヒネ等の薬剤管理指導を通じて疼痛緩和問題症例へ、薬剤使用の観点から関与しています。

治験については、治験薬管理だけでなく治験全般の管理においても、薬剤部門は治験主任を中心に積極的な対応を図ってきました。

これからも安全で効果的な薬物療法に関与し、患者志向の業務を推進していきたいと思えます。

（薬剤部長 中川義浩）



平成21年 熊病薬剤科

最近のトピックス

前立腺癌治療最前線 (α 線治療薬ラジウム)



泌尿器科

銘苅 晋吾

近年前立腺癌の罹患数は急増しており、2015年の癌統計予測では男性癌において罹患数予測第1位となりました。前立腺癌に対する治療は病期や年齢によっても異なりますが、手術療法や放射線治療（外照射やブラキセラピー）に続く治療として内分泌療法があります。前立腺癌は男性ホルモン依存性であり、精巣や副腎からの男性ホルモンの分泌や作用を抑制する内分泌療法により治療効果が期待できます。しかし効果の持続期間には個人差があり、内分泌療法により去勢状態（テストステロン低値）であるにも関わらず病勢が進行した状態を去勢抵抗性前立腺癌（CRPC）と呼びます。

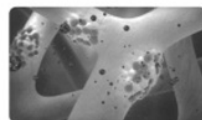
CRPC患者様の約80%に骨転移を認め、骨病変の進行により痛みや骨折、脊髄圧迫などの症候性骨関連事象（SSE）を引き起こします。CRPCに対する治療と併用して、早期からゾレドロン酸やデノスマブを使用することで骨転移巣に存在する破骨細胞の働きを抑制し、SSE発生やそれに伴うQOL低下のリスクを軽減する必要があります。また骨転移巣に対する放射線照射や、多発骨転移に伴う疼痛緩和として β 線放出医薬品であるストロンチウム投与（骨病変に取り込まれて β 線を放出し、局所的に照射治療できる）といった治

療を当院で行ってきました。

そうした中で2016年3月に新たな治療薬として国内初の α 線放出医薬品である塩化ラジウム223（ゾーフィゴ静注）が骨転移を有するCRPCに対して国内で承認され、6月から使用可能となりました。ラジウムはカルシウムやストロンチウムと同じアルカリ土類金属に属し、造骨活性のある部位に集積し、 α 線が腫瘍細胞に対してDNA二本鎖切断を誘発し、強力な殺細胞効果を発揮します。海外の第Ⅲ相試験では塩化ラジウム223投与群でSSE発生までの期間を有意に延長する（Ra群15.6ヶ月vsプラセボ群9.8ヶ月）ことが示されましたが、さらに α 線による強力な抗腫瘍効果により、全生存期間の延長も示されました。

塩化ラジウム223は骨転移を有するCRPC患者様のQOLの維持や向上だけでなく、生命予後の改善も可能とする新しい治療薬です。当院では国内承認前の臨床試験にも参加し、全国に先駆け7名の患者様に使用経験があります。今後投与準備ができ次第、前立腺癌治療の選択肢の一つとして使用していく予定です。今後も増加が予想される前立腺癌患者様の治療に役立てることができれば幸いです。

塩化ラジウム-223の作用機序



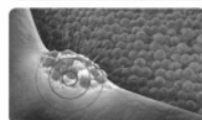
骨転移部位に選択的に取り込まれる

ラジウム-223はカルシウム類似体であり、骨代謝の亢進した部位に集積する。



高エネルギーの α 線を放出する

ラジウム-223は高エネルギーの α 線を放出し、細胞のDNA二重鎖を切断することにより、抗腫瘍効果を示す。



α 線の周辺組織に対する作用は限定的

α 線の射程は100 μ m（およそ細胞10個分）未満である

LJP MA 03 2016 0203

Binford Q, et al. Clin Cancer Res. 2006; 12: 6256s-6257s

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ108回

安全で安心な嚥下調整食の提供を目指して

栄養管理室 福田彩加

日本摂食嚥下リハビリテーション学会より「嚥下調整食分類2013（以下、学会分類2013）」という形態により統一した嚥下食の基準が発表されました。当院では日々多くの患者様の入退院があり、嚥下機能の低下した患者様を他施設へ送り出す上で提供していた食事情報を共通した認識の下正しく伝達することが求められます。当院のこれまでの嚥下食の見直しと今後取り組むべき内容について検討を行ったので報告致します。

【目的】

統一した嚥下食基準として学会分類2013が周知される一方、当院においては未だ独自の名称、粘度、調理法を用いており他施設の嚥下食と異なる現状がありました。従来の嚥下食の見直しと、新たな嚥下調整食の導入を目的として取り組みました。

【方法】

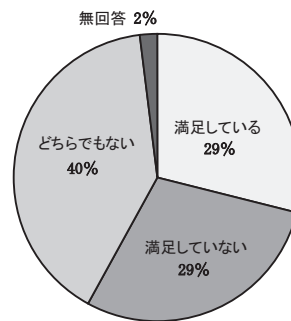
当院に勤務する病棟看護師471名を対象に当院で提供しているペースト食に関するアンケート調査を実施しその実態と課題について検討を行いました。また、学会分類2013を参考に嚥下調整食0j、1jの導入に向けてマニュアルの作成を行いました。

の作成を行い、手作りで提供する物に関しては言語聴覚士へ協力を依頼し検討を重ね提供に至りました。

【考察】

形態・粘度を優先する提供側（栄養士）と視覚を優先する介助側（看護師）ではペースト食に対する優先順位が異なっていました。今後の嚥下調整食を検討する上では、形態と共に彩りや器、盛付等の改善を加え、より満足度の高い食事の提供を目指し、次なる安全で安心な嚥下調整食の整備に努めていきたいと思えます。

アンケート結果抜粋（満足度）

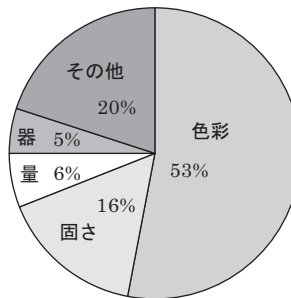


【問】

現在のペースト食の内容に満足していますか

アンケート結果抜粋

「満足していない」、「どちらでもない」を選択した理由



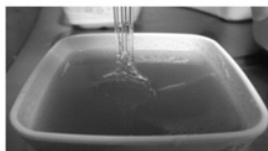
<その他の内容>

- ・ 献立内容の詳細がわからない
- ・ 形態にムラがある
- ・ 見た目や形を改善して欲しい

等

<今後の予定>

| ～2015.3 | 2015.4.1～ | 2015.10.1～ | 2016年度 |
|--------------------|--------------------|--------------------|-----------------------|
| 訓練食1 | 訓練食1 嚥下調整食(0j) | 訓練食1 嚥下調整食(0j) | 名称変更(仮) 嚥下調整食 (0j) |
| 訓練食2 | 訓練食2 | 嚥下調整食(1j) | 嚥下調整食 (1j) |
| ペースト食 | ペースト食 | ペースト食 | ペースト食 ソフト食 |
| 5分菜、軟菜食 (#ミ・トQ) | 5分菜、軟菜食 (#ミ・トQ) | 5分菜、軟菜食 (#ミ・トQ) | 5分菜、軟菜食 (#ミ・トQ) |
| 5分菜、軟菜食 (固形) | 5分菜、軟菜食 (固形) | 5分菜、軟菜食 (固形) | 5分菜、軟菜食 (固形) |
| 常食 | 常食 | 常食 | 常食 |



<嚥下調整食 0j 献立内容>

- ・ お茶ゼリー(手作り)
- ・ 嚥下リード(既製品)



<嚥下調整食 1j 献立内容>

- ・ ミキサー粥ゼリー(手作り)
- ・ お茶ゼリー(手作り)
- ・ 栄養強化ゼリー(既製品)

【結果】

アンケート結果より、現在のペースト食に対して満足していない理由としては「色彩」が一番多く「固さ」、「量」、「器」の順に挙げられていました。

また従来存在していた食種の変更、新たな食種の導入に当たって栄養士、調理師で試作を重ねマニュアル

研修医レポート

臨床研修医

さるわたり まりこ
猿渡 万里子



こんにちは。研修医1年目の猿渡万里子と申します。香川大学を卒業し、この春より熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいております。6年ぶりに熊本に帰り、懐かしさと同時に新天地に来たかのような不思議な感覚を覚え、これから始まる研修生活にわくわくしたように思います。4月にはオリエンテーションを終え、各科に配属されて4日目に熊本地震に見舞われました。医療の‘い’の字もわからない私たちができることは少なく、ただただ自身の無力さに悩んだことを思い出します。しかし、あの経験があったから

こそ、今できることを精一杯行い、貪欲に学ぶ姿勢を大事にしていこうという意志が自分の中で確かに芽生えたように思います。

さて初期臨床研修のローテートは麻酔科に始まり、救急外来、現在は腎臓内科で研修させていただいております。始めはルートの確保、三方活栓、医療機器の使い方もわからず、毎日が新しい手技への挑戦の連続でした。救急外来では次々とやってくる救急車の数に自分の力の限界を感じることもありました。現在は初めて担当患者さんをもたせていただき日々診療にあたっておりますが、始めは状態が悪かった方も快方に向かい、笑顔で色々なお話をしてくださることに日々喜びを感じています。

未だに慣れないことが多々ありますが、指導医の先生方には優しくご指導いただき、また病棟スタッフの皆さまには数々のサポートをしていただきながら、充実した研修生活を送っております。今後も謙虚に学ぶ姿勢を忘れず、いち早く熊本の医療に貢献できるよう努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

臨床研修医

ながの みわ
永野 美和



こんにちは。研修医1年目の永野美和です。3月に熊本大学を卒業し、この熊本医療センターで初期臨床研修させていただいております。

4月のオリエンテーションの後、外科からの研修スタートとなりました。1週間もしないうちに震災が起き、院内の地理も電子カルテの使い方もわからないままの非常事態で、1か月があっという間に過ぎていきました。それでもオーベンの先生をはじめ、スタッフの方々はとても熱心で、基本的手技や病棟業務のことだけでなく医師としての心構えまで1から丁寧に教えてくださいました。数ある手術の間に病棟業務等をし、大変忙しい毎日ではありましたが、今後の医師生活に大きく関わる2か月となりました。

2ターム目は、引き続き手術室で麻酔科にお世話になりました。毎日初めて会う患者さんの全身状態を把握し、手術を乗り越えるお手伝いをさせていただくのは、考えていたより患者さんと密接に関わる研修でした。また、ルート採りや気管挿管など手技が多く、苦手な脊髄くも膜下麻酔も何度も教えていただきました。

そして、今は骨髄移植を多く行う血液内科で研修させていただいております。初めは難しい印象でしたが、移植により人生が変わる患者さんを見ると、移植医療の可能性に感動する日々です。バイタルサインだけでなく患者さんとの会話から得る情報をもとに、内科ならではの管理を学んでおります。

5か月経っても慣れない研修生活ですが、毎日スタッフの皆さまに温かくご指導いただきながら充実した研修生活を送っています。2年目の先輩方もみな優しく、たくさんいる同期にも支えられています。これからもまだまだご迷惑をおかけすると思いますが、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

研修のご案内

第65回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成28年10月15日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：宮本外科・消化器内科 院長

宮本大典 先生

演題：「大腸がんの最近の話題」

- | | | |
|---------------|-----------------------|---------|
| 1. 大腸がんの内視鏡治療 | 国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 | 松山太一 |
| 2. 大腸がんの外科治療 | 国立病院機構熊本医療センター外科医長 | 志垣博信 |
| 3. 大腸がんの薬物治療 | 国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長 | 榮 達智 |
| 4. 大腸がんの最近の話題 | 熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科学 | 宮本英明 先生 |

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

第212回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成28年10月17日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

- 内科基礎講座 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。
 「第1症例 心筋梗塞の症例から」 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本和輝
 「第2症例 血液内科の症例」 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 山口俊一郎
- ミニレクチャー「原発性アルドステロン症について」
 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科 西口佳彦

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第181回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成28年10月20日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

- 血糖管理状況とHbA1c値の乖離をどう考えるか。
 国立病院機構熊本医療センター 糖尿病・内分泌内科部長 西川武志
- 型糖尿病に合併した低ナトリウム血症の鑑別
 国立病院機構熊本医療センター 糖尿病・内分泌内科医長 小野恵子

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5441

第124回 総合症例検討会（無料）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成28年10月26日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：『発熱精査中の急変』

(79歳 男性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター血液内科部長 日高道弘

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長 村山寿彦

「高血圧症にて通院中に発熱、多形滲出性紅斑が出現した。かかりつけ医よりステロイド投与開始されて精査のために紹介入院となった。入院8日目に病態が急変した。」

※臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽に御参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

2016年 研修日程表 10月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

| 10月 | 研修センターホール | 研 修 室 |
|--------|---|--|
| 1日(土) | 9:30~14:30 第39回 ナースのための心電図セミナー 〈講演〉心電図の基礎 各種心疾患における心電図 不整脈 | 国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 宮尾雄治 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本和輝 すえふじ医院 院長 末藤久和 先生 |
| 2日(日) | | |
| 3日(月) | | |
| 4日(火) | | |
| 5日(水) | | |
| 6日(木) | 7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「消化器救急疾患について」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科 浦田昌幸 | |
| 7日(金) | | |
| 8日(土) | | |
| 9日(日) | | |
| 10日(月) | | |
| 11日(火) | | |
| 12日(水) | | |
| 13日(木) | 7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「急性腹症について」 国立病院機構熊本医療センター外科医長 久保田竜生 | 18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会一般検査研究班月例会(研2) |
| 14日(金) | | |
| 15日(土) | 15:00~17:30 第65回 症状・疾患別シリーズ 「大腸がんの最近の話題」 〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕 座長 宮本外科・消化器内科 院長 宮本大典 先生 1. 大腸がんの内視鏡治療 国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 松山太一 2. 大腸がんの外科治療 国立病院機構熊本医療センター外科医長 志垣博信 3. 大腸がんの薬物治療 国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長 榮 達智 4. 大腸がんの最近の話題 熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科学 宮本英明 先生 | |
| 16日(日) | | |
| 17日(月) | | 19:00~20:30 第212回 月曜会(内科症例検討会)(研2) 〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕 |
| 18日(火) | 19:30~20:30 第48回 熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会 「脳卒中後の嚥下障害の経口摂取までの判断について」 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長 中島 健 済生会熊本病院言語聴覚士 榎田幸助 先生 御幸病院言語聴覚士 高橋奈々 先生 熊本機能病院言語聴覚士 竹谷剛生 先生 | |
| 19日(水) | | 13:00~17:00 糖尿病教室(研2) 19:00~20:45 第181回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) 〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕 〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕 |
| 20日(木) | 7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「婦人科救急」 国立病院機構熊本医療センター産婦人科 山本 直 14:00~15:00 第43回 市民公開講座 「足の病気を語る」 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 牧野公治 「巻爪、陥入爪について」 国立病院機構熊本医療センター形成外科医長 東野哲志 | |
| 21日(金) | 13:00~16:00 新人看護師技術研修 ~楽しく学ぶ基本のき~ 「人工呼吸器看護 基礎」 | 15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「肝硬変について」 |
| 22日(土) | 14:00~16:00 熊本県滅菌消毒法講座 「滅菌物・滅菌製品の管理について」 | |
| 23日(日) | | |
| 24日(月) | | |
| 25日(火) | 18:30~20:30 血液研究班月例会 | 19:00~21:00 小児科火曜会(研1) |
| 26日(水) | 19:00~20:30 第124回 総合症例検討会(CPC) 〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕 「発熱精査中の急変」 | |
| 27日(木) | 7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「泌尿器の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター泌尿器科 鮫島智洋 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会 〈細胞診月例会・症例検討会〉 | 19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2) |
| 28日(金) | | |
| 29日(土) | | |
| 30日(日) | | |
| 31日(月) | | |

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)